

現国道113号の 道路空間の再生検討を行います。

～第1回南陽地区道路空間再生検討委員会～

○赤湯バイパスの整備後の、地域に貢献出来る現国道113号南陽地区の道路空間再生に向けた検討を行います。

- 委員会は2回を予定しています。
住民アンケートや懇談会を踏まえた
- ・住民意見の実現に向けた助言
 - ・住民意見を反映した再生整備の提言

1. 日 時 : 平成19年10月26日(金) 14:00 ~ 16:00

2. 場 所 : 南陽市役所 4F 大会議室

3. 議事内容

- ①委員会の目的・スケジュールについて
- ②住民アンケートの調査結果の概要について
- ③南陽市の現状を踏まえた国道113号の位置づけと課題について
- ④住民懇談会での検討テーマについて

<発表記者会:山形県政記者クラブ・米沢記者倶楽部>

<問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所
〒990-9580 山形県山形市成沢西四丁目3番55号
Tel 023-688-8946 (交通対策課 直通)
携帯 090-8924-9639
交通対策課長 中村 幹男 (内線471)

南陽地区道路空間再生計画検討の概要

地域の皆さんの声を反映した道づくり

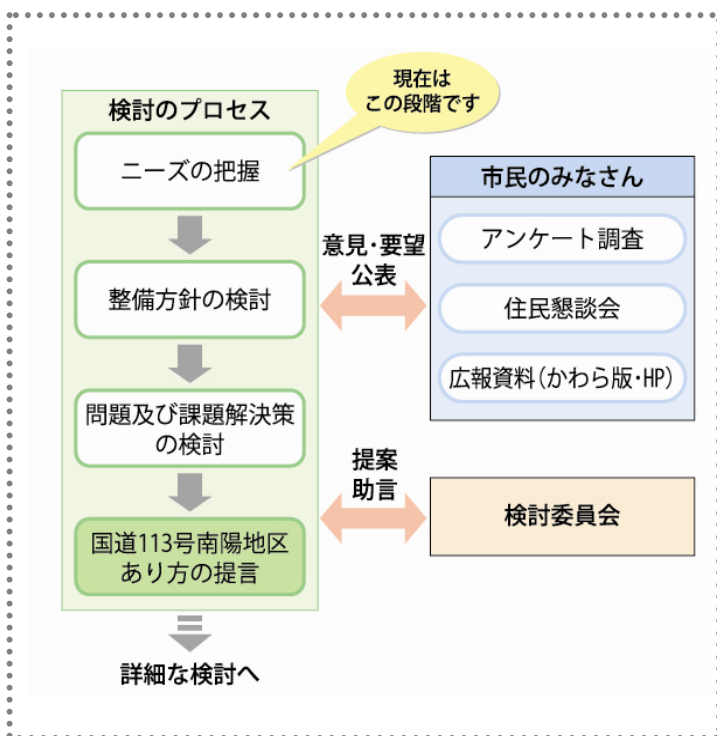
現在、赤湯バイパスは、置賜地域と日本海を結ぶ動脈としての整備、赤湯市街地の交通環境の向上を目的に地域高規格道路として整備を進めています。

この赤湯バイパスが開通した後、国道113号南陽地区は、長距離の通過交通が赤湯バイパスを利用するため交通量が減少し、地域の皆さんの利用が主体となる道路となることが予想されます。

そのため、国道113号南陽地区の「道路空間再生計画」では、周辺にお住まいの方々や道路の利用している方々のニーズに沿った道路整備が必要と考え、学識経験者や関係住民の方々を始めとした各位の意見・要望を広く取り入れ、整備のあり方の検討を進めていきます。



国道113号再生計画検討の流れ



市民参加型の検討手法（P I）

検討手法は、市民参加型による検討（通称；P I）により進めていきます。

P I（パブリック・インボルブメント）とは、市民のみなさんとコミュニケーションを図りながら進めていくことで、広く意見をいただき、その意見を検討に反映させていく仕組みです。

今回の検討では、「地域住民を対象にしたアンケート（平成18年11月実施済）」の実施、「南陽地区道路空間再生計画検討委員会」、「住民懇談会」の開催を計画しています。



南陽地区道路空間再生計画検討委員会

委員名簿

氏名	役職
吉田 朗	東北芸術工科大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 准教授
鈴木 洋	南陽市地区長連絡協議会会長
竹田 三佳	南陽市社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター
落合堂 淳夫	南陽市商工会会長
石川 信美	南陽市観光協会会長
押切 猛雄	山形県置賜ハイヤー協会会長
土田 良男	山形県置賜総合支庁 建設部長
柴田 誠	南陽市副市長
加藤 正人	赤湯小学校校長
原 憲章	南陽警察署長
吉田 敏晴	山形河川国道事務所長